

【進学に関わる費用】

進学について考える時に、受験料や学費のことも気になると思います。入学時と在学中にそれぞれどのくらい必要なのか、金額の目安を知っておきましょう。（ベネッセのマナビジョンよりデータ等を引用しています）

1 受験料

受験料は、国公立大と私立大を比較すると国公立大が安価です。私立大の場合、おおよそ1校あたり3万5,000円ですが、医歯薬系統の場合は高額になる場合もあります。また、私立大の共通テスト利用入試は、一般選抜に比べ受験料が安価の場合がほとんどです。どの大学・学部をどのような入試方式で受験するのか、金額の面からも検討しましょう。

入試方法	金額のめやす
共通テスト	3教科以上 18,000円 2教科以下 12,000円 ※成績通知を希望する場合はプラス800円
国公立大・2次試験(平均)	1校につき、17,000円
私立大・一般選抜(平均)	1校につき、約35,000円 ※歯学系・医学系では40,000～60,000円かかる場合もある

※令和2年度入試現在。

※このほか、私立大の場合、願書を購入する費用として1校あたり1000円前後かかる場合が多い。共通テストの願書・国公立大の願書は基本的には無料。

●宿泊費がかかる場合も…

遠方の大学を受験する場合は、交通費や宿泊費が必要となります。しかし、最近では優秀な受験生を全国から集めるために、「地方試験」を実施している大学・学部が多くみられます。私立大だけでなく、国公立大でも実施する大学が増えていますので、ぜひ調べてみてください。

●入学金は返還されない…!

入学手続き締切りまでに納入する入学金(約25～30万円)は、入学しなくても返還されないことがほとんどです。よって、押さえの大学に払い込んで戻ってこないことも多いため、本命と押さえの手続きを必ず確認して受験スケジュールを作成しましょう。

2.大学合格から入学までにかかる費用

大学に合格すると、入学の準備が始まります。大学に納める入学金や授業料のほか、大学の教科書・教材や生活用品を購入する費用も必要です。さらに、一人暮らしをする場合、住まい探しにも費用がかかります。

初年度納入金	入学する大学に納付する入学金・授業料など
教科書・教材購入費	パソコン、教科書など
住居に関連する費用	住まいを探しに行くための交通費や宿泊費、敷金、礼金、斡旋手数料、前払い分の家賃など
生活用品購入費	家具、家電、寝具、日用雑貨、衣類など
その他	引っ越し費用、4月分の生活費など

3 初年度納付金

国公立大も法人化によって大学や学部・学科ごとに金額の差が出てきています。また、施設設備費や実習費などが授業料と別にかかる場合もあります。

●初年度納付金のめやす(国公立大、私立大昼間部の平均額)(単位:円)

区分	授業料	入学料	施設設備費	合計
国立大※1	535,800	282,000	※4	817,800
公立大※2	538,633	393,618	※4	932,251
私立大文系※3	781,003	231,811	152,496	1,165,310
私立大理系※3	1,101,854	254,941	184,102	1,540,896
私立大医歯系※3	2,847,940	1,050,306	872,711	4,770,957

※1 文部科学省令による照準額。ただし、国立大の法人化により、国立大の学費も大学間で差が出ている。

※2 文部科学省「平成30年度学生納付金調査」。公立大昼間部の平均額。入学料は地域外入学者の平均額。(地域内入学者の入学料の平均額は230,347円)。

※3 文部科学省「平成29年度私立大学入学者のかかる初年度学生納付金平均額調査」。私立大昼間部の平均額。

※4 施設費、実習費、諸会費などを徴収される場合がある。

●授業料について

在学中の授業料は、年度ごとに前期と後期に分けて支払うのが一般的です。上の表ではめやすとなる金額を挙げていますが、実際には大学や学部系統ごとに大きく異なります。なぜなら、学年ごとに納付額が異なったり、例えば薬学部では4年制か6年制かで在学中に支払う総額が変わるなど、「私立大理系だからこの金額」などとひとくくりにできない場合が多いからです。詳しい納付額は、各大学の大学案内等でご確認ください。